

留学報告書 II (2024 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾普通部 2 年生
留学先校名	Fay School
留学期間	2024 年 9 月から 2025 年 6 月まで

留学を振り返って

留学に行く前に期待していたこと、心配していたことはありましたか。実際に行ってどのように変わりましたか。

色々な国から来た人たちとコミュニケーションを取れるということ、そして英語だけの空間に身を置くことができることを期待していました。実際に、クラスや自分の寮内、他の寮にも色々な国籍の多くの友人ができ、友人にはとても恵まれました。心配していたことはルームメイトとうまくやっていけるかということです。仲良くなろうと努力しましたが、結局最終日まで仲良くなることはできず残念でした。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

秋のクラブ活動ではチェスを楽しみました。春は野球好きの 9 年生たちが作ったキャップ野球の部活に入っていました。

クラブ活動以外では、毎日授業が終わった後（放課後）に、事前に自分で選んだスポーツをしました。僕は秋にクロスカントリーをしました。今まで走ることが苦手だったのですが、新しいことにチャレンジしてみたくて、初めてするクロスカントリーを選択しました。最初は持久走はきつかったものの、次第に慣れ、上位 3 割の成績も残すこともでき、友達も沢山作り、結果的に良い選択となりました。

冬には僕が小さい頃から経験しているスキーを選択しました。最初は友達とみんなで楽しくスキーをしていましたが、スキージャンプで着地時に転倒してしまい、鎖骨を骨折しました。骨折後はスキーはできませんでしたが、スキーがうまくできない初心者の子にコツを教えたり、先生のお手伝いをしたりしていました。それが評価されて冬のスポーツアワードをいただき、とても嬉しかったです。

春は僕が一番楽しみにしていた野球を選択しました。残念ながら鎖骨骨折のため最初の 1 か月はプレーできなかったので一軍に入ることができず、とても悔しい思いをしました。しかし、鎖骨は順調に治り、後半の 1 ヶ月ほどプレーできました。この時間は光のように速く過ぎ去ってゆきました。

週末の過ごし方は基本的に二つあります。一つはキャンパス内でのんびりしたり、ジムに行ったり、宿題をしたり、夜に映画を見たりする過ごし方。二つ目はキャンパス外に友達とトリップに行く過ごし方です。ターゲットや映画、遊園地、アジアンスーパーマーケット、博物館に行ったりします。僕はレストランやアウトレットに行くトリップがある時はいつも友達と一緒に行っていました。友人だけとのショッピングは楽しかったです。トリップの中で一番印象に残っているのは、最後の週末に野球好きの友達とレッドソックスの試合に行ったことです。本来は 9 年生しか行けないのですが、空き席があったので特別に許可してもらえました。残念ながら日本人選手は出ていませんでしたが、本場の雰囲気を感じることができ、また一緒に行った 9 年生がみんな仲の良い 9 年生だったので、一生の思い出となりました。

他にも 6 月には、国連会議と同じように生徒が参加国の代表となりディベートする、“Modern UN Club”というイベントにも参加しました。議題は“核兵器の保有について”でした。何故か参加国に日本が含まれておらず、僕は韓国の代表（本当は日本がやりたかった。。）として会議に参加しました。日本の立場ならもちろん反対ですが、韓国としての参加だったので僕の意見は“特定の国では核兵器は戦争の抑止力として機能する”という立場で自分の意見を言いました。僕の意見は少数派で、僕の意見に同意する数少ない他国の代表と頑張ってディベートしましたが、多数決で負けました。しかしながら、韓国が抱えている核問題についてのスピーチや、ディベートでの僕の意見や発言が先生方に評価され、“Best Diplomatic Award”をいただきました。僕の陣営はディベートには負けてしまいましたが、ディベートが始まる前に皆で準備をしたり、一緒にドーナツを食べたりした時間は、ディベートの勝ち負けに勝るとも劣らない、思い出深い時間となりました。

また、発達障害を持つ子供たちと一緒にスポーツをする週末のボランティアに 3 回ほど参加しました。発達障害を持つ子が笑顔で思い切り身体を動かす姿はとても印象的で、良い経験になりました。

課外活動として楽器のプライベートレッスンも選択できました。僕はこれまでに楽器を習ったことがありませんでしたが、フルートのレッスンを受けました。初めての楽器を英語で学ぶことは、とても難しかったです。

このようなイベント以外にも、年に一回開催される“Talent show”や“Taste of Nation”に日本人グループとして参加しました。Talent showでは自分の能力を発表したり、自分たちの国の曲を演奏したりします。僕たちは日本人希望者で imase さん作曲の Night Dancer をバンド演奏しました。僕はボーカルとして参加しました。僕たちのグループは圧倒的な場の盛り上がり方で一位となり、とても嬉しかったです。みんなで練習する時間はとても楽しかったです。

Taste of Nation は母国の代表的な料理を自分たちで作り、皆で各国の料理を食べるイベントです。僕たちは日本人 11 人で集まり、唐揚げ、おにぎり、お味噌汁などを作りました。普段はバラバラに生活している日本人が集まって皆で料理する経験はとても楽しかったです。自分の国の民族衣装を着ても良いとのことだったので、僕は弓道着を着て参加しました。僕の道着はとても人気でした。また、日本の伝統である折り紙や消えるタトゥーで遊んだりしました。他の国の友達のブースにも遊びに行き、色々な国のご飯を食べ歩くことができ、とても良い経験でした。ご飯が美味しい国は中国、韓国、日本、そしてイタリアだと感じました。

勉強の進め方や進学や将来について、アドバイザーや学校の先生と話す機会がありましたか。どのようなアドバイスをいただきましたか。

勉強についてはほとんど心配していませんでした。普通部の科目数に比べてみたらテストは数学、歴史、第二外国語のみで少なかったの、テスト対策の学習をするというよりは、日々の授業や課題に取り組むための勉強がメインでした。ポスターやスライドを作るプロジェクトなどは最初のころは進め方が分からず先生の助けを要しましたが、一回方法を覚えればそれほど難しくありませんでした。

各科目の先生やアドバイザーの先生と話す機会は授業以外でもありました。アドバイザーの先生とはアドバイザーの時間で週 2 回会うことができました。アドバイザーの先生は最も身近な存在で、何か困ったことや質問があるときに、最初に相談します。学校の先生とはランチテーブルやディナーテーブルで一緒になったり、ドームペアレンツとして週末ドームに来られた時に話すことができました。それ以外でも、休み時間中に教室にいて時間があるときは先生と様々な話をしたりすることがありました。

短期・長期休暇はどのように過ごしましたか？

サンクスギビングの休みでは、たまたま前年度の留学生と同じお宅にホームステイをしました。宿泊中に一番びっくりしたのは日本との食文化の違いです。日本では食事を大切にする文化があり、僕自身も食事は朝昼晩しっかり食べています。しかし、アメリカの一般家庭では朝ごはんはヨーグルト、お昼ご飯はサンドイッチ、夜ご飯はチキンとサラダなど、とてもシンプルなもので、日本とは食に対する感覚が違うということを体感しました。お腹が空いた時はキッチンを自由に使って良いと言っていたので、自分で目玉焼きや袋麺にチキンを乗せたラーメンを作ったりしました。

本場のサンクスギビングを体験したり、同い年のホストファミリーの男の子と一緒にゲームをしたり、野球をしたり、遊びに行ったりし、とても楽しみました。特に日曜日にホストファミリーと一緒に教会に行き、自分たちで作ったクッキーをホームレスの方へ配って回ることは、日本ではできない経験でした。

他にも、2 月の約 1 週間の休み期間中には、Fay School の企画でカナダのケベックシティに旅行に行きました。すごく寒かったのですが、同級生と行く旅行は非日常的で面白かったです。

それ以外の長期休暇は日本に一時帰国していました。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。
授業の進め方で特に興味深いものがあれば、具体的に教えてください。

授業の進め方は教科ごとに異なります。

英語の授業では、先生が授業日ごとに考えたトピックに取り組みます。ほとんどの日はポエムを書いたり、エッセイ本を読んだり、本を読んで先生が作った問題に答えたりします。たまにショートムービーを見たり、俳句を作ったりもしました。とてもユニークな感性を持っている先生で楽しかったです。

理科の授業ではプロジェクトに取り組みました。プロジェクトというのは、学んだ内容や本の考察などをスライドにまとめたり、ポスターを作ったりすることで、多種多様な方法でプロジェクトを進めました。僕が一番記憶に残っているのは、とある小学生3年生が作った普通のストーリーに科学的な値や話を付け加えて自分で問題を作り、その過程をポスターにまとめるプロジェクトです。僕は休み中も取り組み、A+をいただきました。普通部の理科と比べるとレポートの内容自体は困難ではありませんでした。理科のレポートを英語で作成する経験は新鮮でしたが、学ぶ知識の量や深さは普通部の授業の方が素晴らしいと思いました。

第二言語（フランス語）はフランス人の先生から簡単な挨拶やフレーズを学びました。フランス語は学んでいて楽しかったです。日本に帰国した今でも続けています。

数学の授業は基本的に、先生が新しい単元について教えてくださる授業形式です。宿題はノートを提出するのではなく、宿題で解いた問題を自分たちがホワイトボードに書いて毎回先生にプレゼンテーションしており、日本と違うシステムだと思いました。他にも壁一面に貼られたお金の枚数を予想したり、洞窟の深さを予想したり、グラフで自分を象徴する絵を書いたりするプロジェクトを行い、とてもユニークだと思いました。数学の授業はレベル別に分かれていて、僕は上のレベルにいましたが、日本の授業と比べると同等もしくは少し上ほどの難易度でした。数学の授業も先生によって内容が変わるらしく、試験などを全くしない先生もいるようです。僕の先生は学校で一番教えるのが上手な数学の先生だったと思います。

僕が一番興味深いと思った授業は歴史です。基本的には先生がスライドを作って授業をされ、僕たちがノートに写す、歴史の出来事などをまとめて宿題を出す、小テストを受ける、など日本とさほど変わりません。しかし、二回に一回ほどはユニークな授業をしています。例えば歴史上の出来事について、それは正しかったか否かディベートをする、教科書として使う歴史小説から自分たちで問題を出し合ったり、本の内容を4コマ漫画でまとめるなどを授業でしていました。それ以外にも宿題として自分で新聞や風刺画を書いたり、独立した国についてのスライドを作ったり（僕は沖縄について書きました）、日本の授業ではしないようなことを沢山しました。もちろん全てが英語であるため、最初は躓きましたが、月日とともに慣れてゆきました。

期末テストについては1年を通して最後の学期に、1日だけ数学とフランス語のテストがありました。

僕が全ての科目に共通していると感じたのは、「自分はどう考えているか？」ということ話をしたり、プレゼンテーションする機会が多いことです。そして、クラスに取り組む姿勢も重要視されました。取り組み方は十人十色なので、それが大きく成績にも、先生からの信頼へもつながっていました。座って先生の授業を聞いて知識を増やす勉強は普通部の方がずっと進んでいます。普通部の理科レポートほど毎回大変ではないですが、英語で学んで、英語で考えて、英語で発言するとても良い機会でした。

